

事業活動報告 NO. 3

学修ポートフォリオシステムの
導入・活用等の参考指針公益社団法人 私立大学情報教育協会
大学情報システム研究委員会

ここに掲載の参考指針は、目次の「4」を中心に抜粋したものです。
全体は本協会のホームページの <http://www.juce.jp/info-system/port.pdf> に
掲載しておりますのでご覧ください。

目 次

まえがき	1
1. 学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて	
1. 1 学修ポートフォリオをめぐる状況	2
1. 2 学修ポートフォリオに関する基本的な考え方	3
1. 3 提言	3
2. 学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策	
2. 1 シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫	4
2. 2 学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの 構成とその例示	5
2. 3 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点	6
2. 4 振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点	7
3. 学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方	
3. 1 授業の有効性を点検・評価するための学修ポートフォリオ活用の留意点	15
3. 2 授業価値を振り返るためのティーチング・ポートフォリオの導入	16
3. 3 学修ポートフォリオによる教育プログラム有効性の点検	18
3. 4 学修ポートフォリオによる学生の負担軽減のための教学マネジメント対策	18
3. 5 教職員の行動変革を推進する取り組みの留意点	18
4. eポートフォリオシステム構築に伴う留意点	
4. 1 eポートフォリオシステムでとりあげるべき最小限必要な機能	20
4. 2 eポートフォリオシステムに求められる利便性	26
4. 3 eポートフォリオシステム利用上の留意点	27
4. 4 eポートフォリオデータのIRシステムへの接続	28
4. 5 eポートフォリオシステムの導入形態	29
参考	
eポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介	29

まえがき

大学では、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の策定と公表が義務化され、全ての教職員がどのような教育を行い、どのような人材を輩出するのかを、学修成果の観点から把握・評価を行い、その結果を教育活動の改善・進化につなげるという改革サイクルの定着を通じて、教学マネジメントの確立が急がれている。大学教育の質的転換に向けて、社会から教育の質保証について高い期待が寄せられており、卒業時の学修成果を客観的に提示するディプロマ・サプリメント等学修成果の可視化への説明責任がいま問われている。

その仕組みの一つとして、学生自身による学修の達成状況を点検・改善するツールとしての学修ポートフォリオの導入と、教員自身による授業の達成状況を点検・改善するツールとしてのティーチング・ポートフォリオの導入、及び教学データを組み合わせた教学 I R の整備が不可欠となっている。

とりわけ大学は、学士力の達成に向けて、学生の学修状況の履歴と学修成果の蓄積などの学修ポートフォリオ情報を活用し、学修の過程及び教育の過程を「可視化」することで、学生一人ひとりに対してきめ細かい学修支援が求められている。しかし、これまで学修ポートフォリオの意義・目的及びメリットが、学生・教職員に十分認識されていないこともあり、期待された以上の成果が報告されていない。

そこで本協会では、学修ポートフォリオの導入促進と有効活用の方策について5年に亘り検討した結果、①シラバスの中で上級生・卒業生から動画・音声で学生に呼びかける工夫、②ワークシートやCan-doリストによる学修状況の確認、③教員コメントの迅速なフィードバック、④授業価値を振り返る簡便なティーチング・ポートフォリオの導入、⑤学修ポートフォリオと教学データを組み合わせた教学 I R システムとの接続、⑥初年次教育用・達成度振り返り用・キャリア用ポートフォリオの構築、⑦シングルサインオン、モバイル端末対応、学修に不安を抱える学生の相談・助言体制、⑧ e ポートフォリオシステムの導入事例と課題などに配慮した「学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針」をとりまとめることができた。

参考指針のとりまとめを通じて、学生に学修ポートフォリオで振り返りを求める反面、最良の教育を学生に提供できるよう、教員自身が授業の価値や授業設計・運営について振り返りを行い、その結果を踏まえて教育プログラムの充実に主体的に関与していく姿勢が改めて教員一人ひとりに求められてくることを再確認した。

いま大学には、学長のリーダーシップの下、教育改革の推進が要請されているが、それには、教職員の意識改革とステークホルダーを含めたオープンな教育システムの構築が喫緊の課題となっている。

ここに、5年に亘り本問題について研究を続けてこられた大学情報システム研究委員会の方々のお力添えに厚く御礼申し上げます。また、事例情報の提供を快く協力いただいた大学関係者に対して感謝を申し上げます。

願わくは、この参考指針が契機となって、教育のアセスメントシステムとして学修ポートフォリオが普及され、教育の質保証にいささかなりとも寄与することができるならば、望外の幸せである。

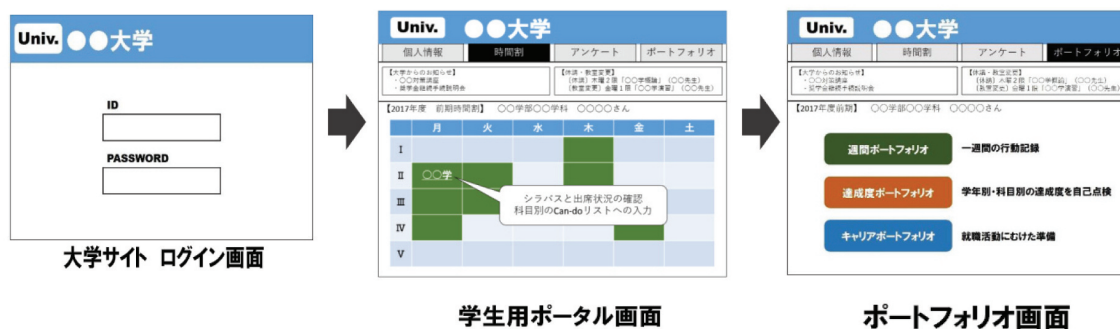
大学情報システム研究委員会
担当理事 大野 高裕
委員長 岩井 洋

4. eポートフォリオシステム構築に伴う留意点

ここでは、eポートフォリオシステムの設計・開発ではなく、eポートフォリオシステムの構築及び利用に関する留意点、既に導入・利用している大学の事例と運用上の課題について紹介し、システムの導入を検討中の大学や導入後の改善をめざす大学に配慮すべき最小限必要な情報を提供する。

4.1 eポートフォリオシステムでとりあげるべき最小限必要な機能

eポートフォリオシステムに必要な機能は、大学の導入目的に応じて異なるが、大学に共通すると考えられる「初年次教育用」、「達成度振り返り用」、「キャリア用」の3形態を提案する。

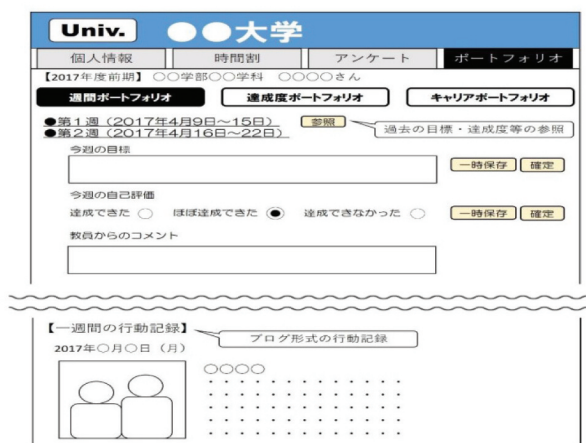


(1) 初年次教育用のeポートフォリオ

ここでは、学生が大学生活を計画的に過ごす習慣を身に付けられるようにすることを目的としており、以下のように「週間ポートフォリオ」を構築して、主体的に大学生活を振り返ることができるようにすることが望まれる。

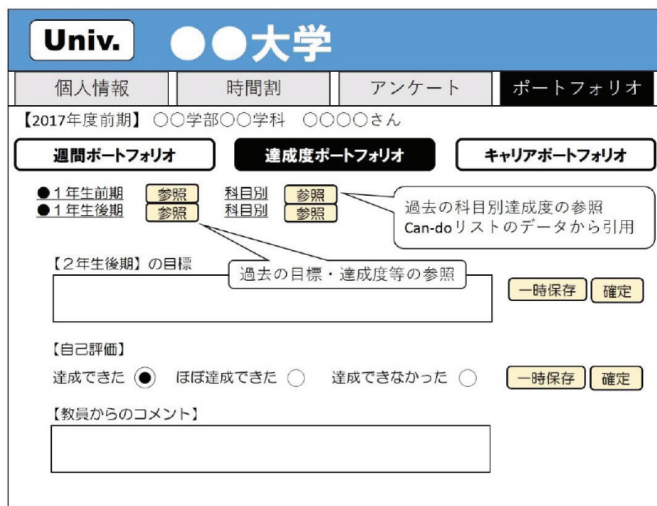
「週間ポートフォリオ」に求められる機能としては、一週間の目標を設定させ、学修・部活動・アルバイトなどの行動記録を文字・写真・動画等で掲載し、目標と行動記録をマッチングして達成度を自己点検・評価できるようにする。その上で、ポートフォリオ上で教員からのフィードバックが受けられるようにする。なお、「週間ポートフォリオ」を使用させる期間は、最短で初年次の前期とし、それ以降は「科目達成度振り返り用」につなげていくことが必要である。

また、一週間の行動記録のデータは、就職での自己PRに学生生活を振り返る拠り所として活用できるよう、「キャリア用」のeポートフォリオに自動転送する仕組みを構築しておくことが必要となる。

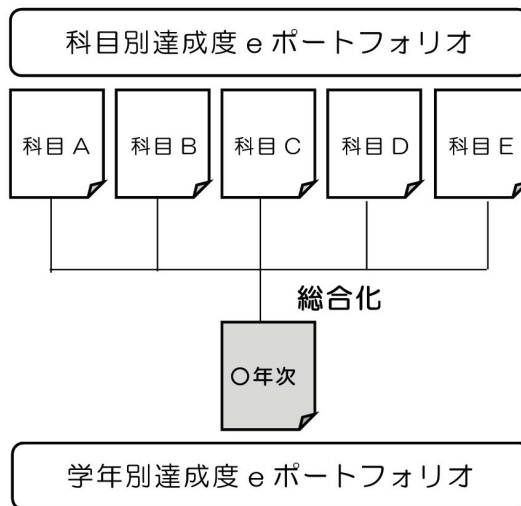


(2) 達成度振り返り用の e ポートフォリオ

ここでは、学年ごとの学修目標を設定させ、学修計画の進捗状況を振り返る中で次年度の学修計画を立てさせる「学年別達成度 e ポートフォリオ」と、授業科目ごとの学修達成度を振り返らせて、次の授業科目に向けて学修計画が立てられるようにする「科目別達成度 e ポートフォリオ」を構築して主体的に学修行動の改善が図れるようにする。



達成度ポートフォリオの画面



達成度ポートフォリオの流れ

① 「科目別達成度 e ポートフォリオ」

ここでは、授業シラバスに掲載している到達目標について、学修達成度を自己点検・評価するため、知識・技能・態度の達成状況と教室外での学修状況（学修時間数や学修内容）をワークシートに掲載させる。その上で、教員及び上級学年生のファシリテータが「科目別達成度 e ポートフォリオ」をモニタリングしてコメントを行い、適切な学修行動の支援ができるようにする。学生自身が科目別の到達目標について、具体的に「できたこと、できなかったこと」を自己点検・評価するためのツールとして、また教員が学生の達成度を把握するためのツールとして、ポータル画面に「Can-do リスト」を掲載して利用することが望まれる（下図参照）。なお、Can-do リストの指標や尺度の設定には、ディプロマ・ポリシーとの関係性を重視するとともに、評価方法・基準の明確化が必要である。このことから、Can-do リストはディプロマ・ポリシーを測定する上で重点的な主要・必修科目に限定して実施することが望ましい。

その上で、点検・評価の結果を IR データとして活用できるように自動集計して数値化・可視化することが望まれる。

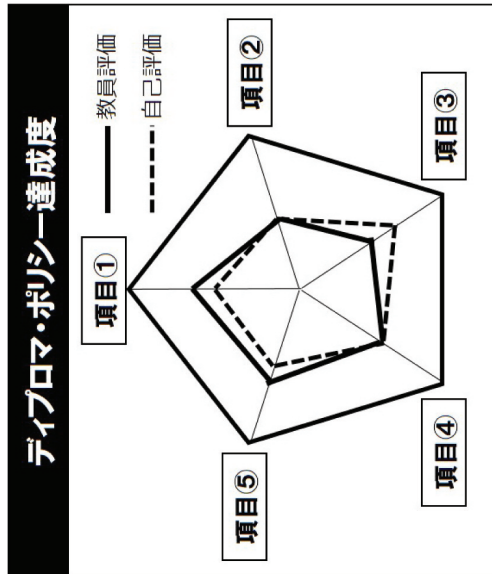
② 「学年別達成度 e ポートフォリオ」

ここでは、学年ごとに学修する授業科目の全体を通じて、ディプロマ・ポリシーのどの部分を獲得するのか目標を立てさせ、達成状況を振り返る中で卒業までに修得すべき学修プログラムの計画を点検させる。大学の事情に応じて、全ての科目を対象とするのではなく、必修科目、学生全員を対象としたゼミ等で行う。そのために、「科目別達成度 e ポートフォリオ」による達成度状況を可視化し、不足している能力を補うための工程表を作成させる。

ディプロマ・ポリシー・達成度の可視化イメージ

〇〇学部 ディプロマ・ポリシー

①〇〇を通して、〇〇することができる。
 ②△△に対応して、〇〇することができる。
 ③□□し、〇〇することができる。
 ④〇〇に向かって、〇〇することができる。
 ⑤△△を通して、〇〇することができる。



数値化 ← 可視化

学籍番号	到達目標1	到達目標2	到達目標3
A17013	4	3	3
A17018	3	5	3
A17036	2	4	1

教員による達成度評価

* 学生はワークシートや Can-do リストをもとに達成度を自己評価し、教員は学生の自己評価を考慮しながら達成度を評価する。

〇〇学部 カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシーとの対応

科目名	科目の到達目標	① ② ③ ④ ⑤				
		●: DP達成のために特に重要	○: DP達成のために重要	△: DP達成のために望ましい		
〇〇学演習	1. 〇〇を実施することができる。 2. ●●を作成することができる。 3. △△について説明することができる。	●				△

Can-doリスト

【科目】●●学入門
 【到達目標】

1. 〇〇を説明することができる。
 2. ●●を実施することができる。
 3. △△を作成することができる。

項目	到達目標	YES/NO
到達目標1	〇〇について説明することができる。 〇〇を実施することができる。 〇〇を作成することができる。	
到達目標2	●●について説明することができる。 ●●を実施することができる。 ●●を作成することができる。	
到達目標3	△△について説明することができる。 △△を実施することができる。 △△を作成することができる。	

ふりかえり

数値化
↓
可視化

シラバス

〇〇学演習
 担当者：〇〇〇〇〇教授

科目の到達目標

1. 〇〇を実施することができる。
 2. ●●を作成することができる。
 3. △△について説明することができる。



科目別ワークシート

履修ワークシート 〇〇学演習
 科目名 〇〇学演習
 担当教員 〇〇〇〇〇教授
 履修日付 年 月 日

1. 科目の到達目標を達成し、その達成状況を、到達目標ごとに自己評価してください。

到達目標	達成状況	自己評価
1. 〇〇を説明することができる。	●	3
2. 〇〇を実施することができる。	○	3
3. △△を作成することができる。	△	3

2. 今後の学習計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。〇印で記入下さい。

3. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

4. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

5. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

6. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

7. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

8. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

9. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

10. 履修計画を立て、履修計画に自己評価を記入してください。

学生による達成度の確認

学修状況の確認

* ワークシートは 8 ~ 13 ページを参照

(3) 「キャリア用の e ポートフォリオ」

ここでは、将来の夢、自分の強み・弱み、課外活動・ボランティア、就業体験の成果をワークシートに入力して整理させ、卒業後の自分の姿を想像させる中で、学生生活や学修行動が充実できるように、教職員・上級学年生のファシリテータ、企業・団体や地域社会から助言などの支援ができるようにする。

学生に利用促進を働きかけるためには、振り返りの習慣化が社会人の資質向上に不可欠となることの重要性を卒業生から呼びかけるなどの工夫が考えられる。もう一つの方法としては、ワークシートの提出をポイント化したり、成績の一部に含めたりするなどの工夫も考えられる。

キャリアデザイン・シート

これまでの自分

①現在の自分の長所はどのような点にあると思いますか。在学中の具体的なエピソードも記入してください。

②現在の自分の短所はどのような点にあると思いますか。在学中の具体的なエピソードも記入してください。

卒業後の自分

卒業後、どんな職種・職業につきたいですか。

現在の自分

①「卒業後の自分」に近づくためには、どんな力が必要だと思いますか。

②①の力を身につけるために、いまどんな努力をしていますか。

③いままでに身につけた知識やスキルを、「卒業後の自分」にどのように活かしますか。

コメント

※コメント欄には、教職員や上級生等からのコメントが考えられる。

【理系大学のキャリアデザイン用ポートフォリオの例】

1 年生用		
自分史		
クラス名別:9EY9-999 氏名:工大 デモ学生		
1)高校時代・中学校時代・小学校時代を振り返り、以下の学習分野についてその当時の好き嫌い、得意不得意を分析してください(高校時代については、その理由も記述してください)。		登録・参照
2)①高校時代・中学校時代・小学校時代を振り返り、学校の授業以外で得意だったことは何でしたか。		登録・参照
2)②なぜ、得意だったと考えますか。		登録・参照
3)①将来、何になりたいと思っていましたか。夢は何でしたか。		登録・参照
3)②そのなりたいと思っていたことや夢を実現するためにどのような努力をしていましたか。		登録・参照
4)周囲の人びとと接するなかで、何か学んだことはありますか。		登録・参照
5)感動したことについて思いつくことは何ですか。		登録・参照
6)現在の自分の長所はどのような点にあると思いますか。これまでの具体的なエピソードを添えて記入してください。		登録・参照
7)現在の自分の短所はどのような点にあると思いますか。これまでの具体的なエピソードを添えて記入してください。		登録・参照
キャリアデザインシート 自分史		全項目参照
将来像		
クラス名別:9EY9-999 氏名:工大 デモ学生		
1)①10年後どんな生活をしていたいと思いますか。		登録・参照
1)②そのためにはどのような努力が必要ですか。		登録・参照
2)①働く目的とは、どんなものだと思いますか。(箇条書きでできるだけ沢山あげてください)		登録・参照
2)②そのなかで、最もあなたが重視するものはどれですか。またその理由は何ですか。		登録・参照
3)①現在興味のある職種・職業は何ですか。		登録・参照
3)②なぜ、その職種・職業に興味があるのですか。		登録・参照
3)③興味のある職種・職業にはどのような能力が必要になると考えますか。		登録・参照
キャリアデザインシート 将来像		全項目参照
在学中		
クラス名別:9EY9-999 氏名:工大 デモ学生		
1)【将来像】の3)③で答えた興味ある職種・職業に必要な能力を得るためには、在学中に何をすることがよいと考えますか。理由を含めて具体的に述べてください。		登録・参照
2)これからの学生生活に、どのような心構えで臨みますか。		登録・参照
キャリアデザインシート 在学中		全項目参照
キャリアデザイン・レポート		
クラス名別:9EY9-999 氏名:工大 デモ学生		
★キャリアデザイン・レポート①「卒業後の私」「社会人としての私」		登録・参照
★キャリアデザイン・レポート②「世の中の出来事、時事問題など」		登録・参照
★キャリアデザイン・レポート③「所属学科の領域に関する研究・社会問題・職業」		登録・参照
キャリアデザインシート キャリアデザイン・レポート		全項目参照

2・3年生用		
キャリアデザインレポート		
クラス名別:9EY9-999 氏名:工大 デモ学生		
設問1.「政治、経済、社会、産業・技術」の領域から一つ選び、これから10年後の世界や日本の情勢について、どのように変化しているかを予想し、1000字以上で具体的に記述せよ。		登録・参照
設問2. 設問1の回答に関連する重要キーワード(3つ以上)をあげ、その内容をそれぞれ30文字程度で説明せよ。		登録・参照
設問3. 設問1, 2に対する回答を調査した参考文献を記述せよ。(表記方法は「修学基礎2012 pp.131~132」を参考にせよ。)		登録・参照
設問4. 10年後活躍するためにはどのような能力や知識が必要になるかを予想し、その理由とともに、600字以上で具体的に記述せよ。		登録・参照
設問5. 設問4の能力・知識をどのようにして身に付けるかを、600字以上で具体的に記述せよ。		登録・参照
キャリアデザインシート キャリアデザインレポート		全項目参照
私の4画面		
クラス名別:9EY9-999 氏名:工大 デモ学生		
設問1. 金沢工業大学に入学して以来、これまでに修得してきた知識や技能について以下の(1)~(3)を整理した上で、自分の強み、弱みおよびこれから自分の身の回りで起こると予想される機会と脅威について明らかにし、自分の「現状の姿」を500文字程度で記述せよ。 (1)KIT-IDEALS達成評価表 (2)専門分野学習教育目標達成度評価表 (3)1年次、2年次キャリアデザインポートフォリオ		登録・参照
設問2. 10年後の自分の「ありたい姿」について300文字程度で記述せよ。なお、以下の(1)~(2)を文中に必ず記載すること。 (1)どんな組織に所属し、どんな人達(ステークホルダー)に囲まれていきたいか。 (2)上記の自分を取り囲む人達にどのような貢献、価値提供をしていきたいか。		登録・参照
設問3. 設問1の「現状の姿」と設問2の10年後の「ありたい姿」のギャップを乗り越えるために、今後、何時までに(達成期限)、何を達成するか(目標)を明らかにし、自分の「なりたい姿」を記述せよ。なお、達成期限は以下の3つの段階に分けよ。また、目標は、例えば、100%、90点、上位3位以内などのような目標値として、できるだけ定量的な表現になるよう努力すること。 また、(4)には、「なりたい姿」の手本となる人物がいれば記述せよ。		登録・参照
設問4. 設問3の「なりたい姿」を実現するための「実践する姿」を以下の要領で記述せよ。		登録・参照
キャリアデザインシート 私の4画面		全項目参照

資料提供：平成 27 年度金沢工業大学使用

4.2 eポートフォリオシステムに求められる利便性

eポートフォリオの構築で最も重視しなければならない要素は、学生が日常生活の一部として興味を持って参加できるように、モバイル端末による利便性を考慮する必要がある。また、教員の負担を軽減するために、パソコン上で手軽に操作ができるような仕組みが必要である。

(1) モバイルやパソコンでの利便性

- ① モバイル端末の利便性としては、スマートフォンやタブレットでも入力・蓄積・閲覧ができるように、大きな文字、シンプルなレイアウト、指で操作可能なインターフェイス、画面幅の制限などスマートフォンに最適化した画面設計が必要となる。
- ② パソコン上で教員の負担を軽減するためには、ポータルサイトに一覧できるようにして、閲覧・書き込み、フィードバック、シラバスへの連動などワンストップの仕組みが求められる。
- ③ eポートフォリオシステムの利用にあたっては、ID・パスワードを何回も入力するなどログインに手間がかかるため、シングルサインオンや入り口のポータル化を図る必要がある。

(2) 入力負担の軽減

- ① フィードバックの負担を軽減するために、「褒める、共感する、励ます、ねぎらう」などの教員からのコメントをテンプレートとして準備しておくことが効果的である。
- ② 学生がワークシートを入力する際には、作成途中の内容を一時保存できる機能、教員及びファシリテータに提出する機能、写真や静止画などが添付できる機能が求められる。

【教員コメントの事例】

項目	場面	コメント例
ほめる	課題に対して	「(全体に)よくできていましたね」「特に～の部分がよくできていましたね」
	活動・日常生活に対して	「〇〇プロジェクトは大きな成果がありましたね」「～をよく頑張っていますね」
共感する	課題の内容に対して	「そうですね。私もそう思います」
	劣等感・疎外感をもつ学生に対して	「そこが～さんのいいところだと思います」
ねぎらう	課題に対して	「〇〇プロジェクト、よく頑張りましたね」
	日常生活に対して	「体調は、もう良くなりましたか？」
励ます	課題や活動等がうまくいかない学生に対して	「次回は、もっと頑張りましょう」「～さんなら、きつとうまくいくはずです」
促す	さらに高度な課題や活動に挑戦させる	「次は、～に気をつけたら、もっとよくなると思います」「次は、～の課題に挑戦してみましよう」
質問する	課題に対して	「～の部分について、詳しく説明してもらえますか？」
	日常生活に対して	「最近、睡眠時間をしっかりとっていますか？」

※「励ます・促す・質問する」コメントを付す場合は、「ほめる・共感する・ねぎらう」などのコメントのあとにつなげるのが効果的。(例:「〇〇プロジェクトは大きな成果がありましたね。次は、～に挑戦してみましょう」)

4.3 eポートフォリオシステム利用上の留意点

eポートフォリオシステムを利用する上で配慮すべき点として、学生への書き込みを促す仕組み、教員による書き込み状況の把握とフィードバックの工夫が必要である。

(1) 書き込みを学生に促すための教職協働支援体制

① ヘルプデスクの設置

eポートフォリオ利用に際してのQ&Aについて、教職協働を前提にネット上に掲示板を設け、文字または音声・画像などで説明する。

② ファシリテータによる呼びかけの体制

社会人基礎力としての自己管理能力の獲得に役立つことの経験を伝えるために、上級学年生を中心にチームを構成し、担当教員と連携して一、二週間に一回程度の割合で学生に振り返りシートの作成をネット上で呼びかけ、学修の習慣化を働きかける。

③ 障害学生に対する相談・助言の体制

障害の状況に応じたツール(読み上げソフト、点字キーボードなど)を職員で準備する。また、発達障害などの対応には、特記事項としてシラバスへの授業形式を掲載する他、グループ討議をレポートに替える措置、教員との個別発表、個人発表のビデオ提出など配慮した上で、教員及び職員がカウンセラーと連携し、eポートフォリオを通じて学修の相談・助言支援体制を構築する必要がある。

(2) 学修行動モニタリングのシステム化

① ワークシート提出状況の確認

ワークシートの提出状況を教員が一覧視できるように、eポートフォリオのポータル画面をシステム化するとともに、提出期限に応じて未提出の学生へ自動的に督促メールを発信する仕組みが望まれる。

② 行動記録や学修達成度の内容確認

eポートフォリオ上で学生個人のワークシートを閲覧し、教員及びファシリテータからコメントをフィードバックできるようにする。その際、教員・ファシリテータの負担を軽減する方法として、教員コメントの例示をテンプレートとして組み込んでおくことが有効である。その上で、学年別に面談を行い、ポートフォリオの結果を踏まえて学修達成度の内容を確認し、学修計画の内容を指導・助言することが必要となる。

(3) eポートフォリオ情報の管理

① 学生との契約

eポートフォリオに書き込んだ内容の取扱いについて、学修上の相談・助言に利用すること及び教育プログラムの有効性を分析・評価することを主な利用範囲とし、個人情報保護や匿名化、データの利用・保存期間について、大学と学生との間で申し合わせを行っておく必要がある。

② eポートフォリオ情報のアクセス権設定

データの取り扱い権限をルール化するため、科目担当の教員・ファシリテータに

ワークシートの閲覧権限を与えることを規程化するとともに、システム上で権限対象者を区分できるように利用者設定の仕組みを設けておく必要がある。また、ディプロマ・ポリシーが掲げる学修到達目標と科目 e ポートフォリオの学修達成度をマッチングして、教育プログラムの有効性を分析・評価する関係者に対してデータの閲覧権限を設けておく必要がある。

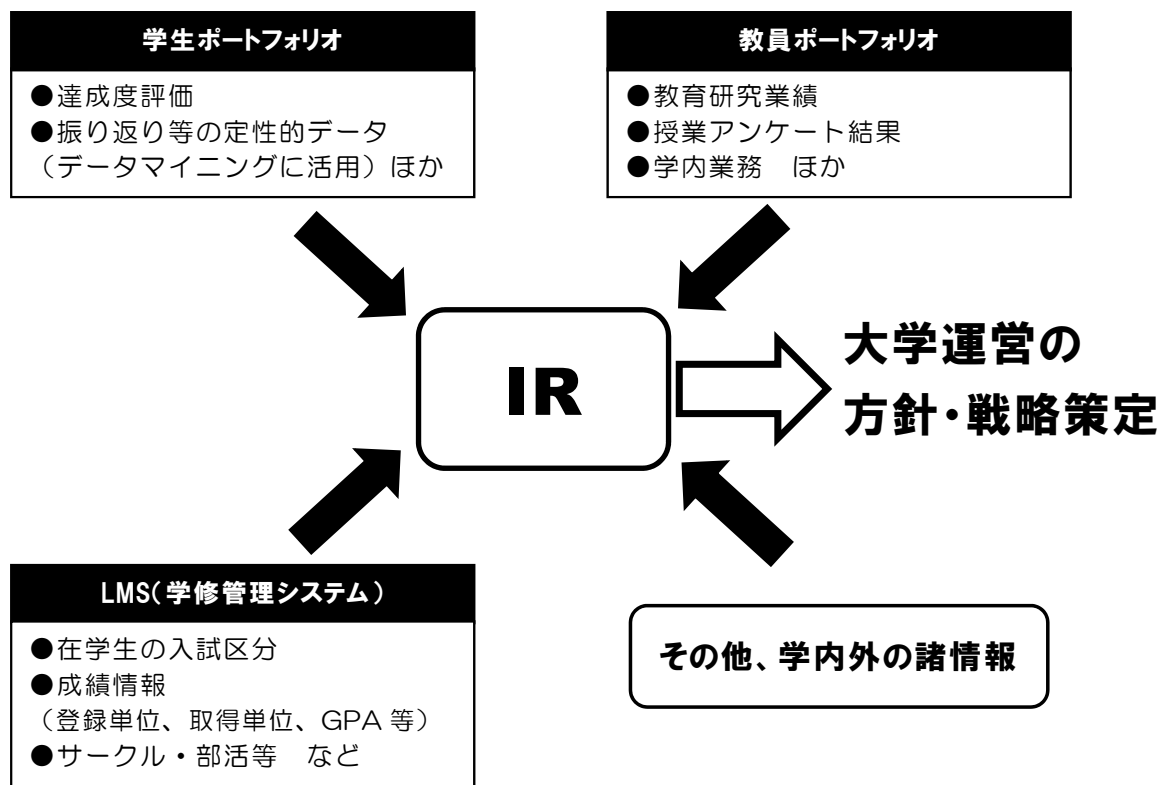
③ e ポートフォリオ情報の暗号化

学生の個人情報を適切に取り扱うためには、アクセス権設定による学内ルールの規定化やシステム上の仕組みが前提となるが、外部からの不正アクセスや内部漏洩などさまざまなインシデントが考えられることから、個人情報を暗号化しておくことが不可欠となる。

4.4 e ポートフォリオデータの IR システムへの接続

e ポートフォリオのデータと成績評価、単位取得、授業出席、資格・検定の取得、課外活動、就職活動、面談記録などのデータを組み合わせ、教育プログラムの有効性を点検・評価し、改善策を見出すことができるようにする教学 IR システムとの接続を考慮しておく必要がある。

e ポートフォリオデータと教学 IR システムの接続については、例えば、学士力の到達目標と学修達成度・成績評価などの主要なデータを相関させ、レーダーチャートやヒストグラム・散布図などで可視化することにより、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を多面的に点検・評価できるようにする。



ポートフォリオと IR のイメージ図

【達成度の可視化からディプロマ・サプリメントへの展開】

昨今、達成度の可視化とともに、卒業時の学修成果を客観的に提示する「ディプロマ・サプリメント」が求められている。下図の例では、ディプロマ・ポリシーで求める「基礎学修力」「専門学修力」「専門実践力」などについて、その達成度を数値化・可視化している。各項目の評価は、個別に定めた評価基準や、場合によってはステークホルダー等の外部評価の結果を考慮して数値化される。

UNIV. ○○大学 ○○ university		ディプロマ・サプリメント (Diploma Supplement)		
資格保有者				
氏名	○○太郎	学籍番号	0123456	
生年月日	平成○年○月○日	国籍	○○	
資格				
学位	学士(○○学)			
主要学修分野	○○学、△△学			
		資格保有者の能力 学位授与方針 (DP)で求める要件を備え、○○をしたり、○○をすることができる。		
項目	1年次	2年次	3年次	卒業時
基礎学修力	2.0	2.5	3.0	3.5
専門学修力	2.0	2.5	3.0	3.3
専門実践力	1.5	2.1	2.8	3.0

4.5 eポートフォリオシステムの導入形態

eポートフォリオシステムは、「独自開発」、「パッケージ利用」、「オープンソース利用」の三つに分類できる。どの形態を選択するかは、導入大学の予算規模、既存システムの状態、専門家の有無、活用方法・内容等によって異なり、各大学で検討を要する。

(1) 「独自開発」

ここでは、学生の振り返りによる学修習慣の確立の他に、教員の教育改善の促進及び組織的な教育改革を実現するという明確な理念を全学的な場で確認した上で、設計方針を確定していくことが重要である。他方、システムを開発した後でも修正を加えて行くことが多いことから、時間とコストが拡大する可能性が高い。また、導入に伴う開発業者の責任問題として、業者の倒産やサービス撤退など、eポートフォリオシステムの継続的な運用に協力が得られない場合があるので、業者の選定を厳格にする必要がある。

(2) 「パッケージ利用」

ここでは、パッケージソフトの基本機能が中心となっているので、活用方法・内容に適合したものを選択することで比較的導入の手間が少ない。他方、ポータル機能やシラバス機能などオプションとして追加・実装することもできるが、コストの拡大に繋がる可能性が高い。その上で、クラウドサービスを利用する場合には、サーバ設備

を管理・運用するメンテナンス費用の負担や担当者の人件費を軽減できるが、長期間に亘る利用となることから、利用料の設定をどのように見通すかが難しい。また、導入に伴う販売業者の責任問題として、業者の倒産やシステムの保守サービス撤退など、eポートフォリオシステムの継続的な運用に協力が得られない場合があるので、業者の選定を厳格にする必要がある。

(3) 「オープンソース利用」

ここでは、無料使用の場合が多い。但し、海外システムではメニューが英語表示になっており、日本語化への費用が発生する可能性がある。システムのバージョンは、比較的頻繁に更新されており、システムに不具合が生じた場合でも対策が講じられている。また、オープンソースを利用する場合には、運用をシステムに合わせる必要がある。しかし、学内の要求に応じたシステムにカスタマイズする場合は、専門の教職員が必須となり、該当者が不在の場合には改めて業者に依頼することが必要となる。そのために、学内に専門家が必要となるため大学での活用が広がらない悩みがある。また、導入に伴う関係者の責任問題として、オープンソースの利用に専門的な知見を有し、維持・運用にリーダーシップを発揮する学内関係者が退職するなど、eポートフォリオシステムの継続的な運用に協力が得られない場合があるので、複数の関係者を確保しておく必要がある。

最後に、eポートフォリオ導入校を対象としたアンケート調査にもとづき、導入事例の紹介一覧、eポートフォリオ運用上の課題と負担を軽減する工夫等について紹介する。なお、参考となる画面については参考資料として巻末にまとめた。

アンケート調査の対象は、これまでに私情協で参考事例として紹介されてきた大学を中心とし、国公私立12校からの回答を得た。導入形態としては独自開発が多く、導入単位および該当学年としては、全学を対象として1年生から3・4年までの導入が目立つ。全体として、学修ポートフォリオとしての活用を基本とし、学習成果の蓄積、学生による振り返りと目標設定、教員からのコメント機能等を共通の機能として装備している。

4.6 eポートフォリオ運用上の課題と負担を軽減する工夫等

以下、アンケート回答校から寄せられた意見についてまとめる。

eポートフォリオ運用上の課題としては、教学上の課題と管理上の課題に分かれる。

教学上の課題では、eポートフォリオを活用する意義や趣旨が学生に十分伝わっていないことや、eポートフォリオを活用する科目とカリキュラム全体との関連づけを明確にしていないことがあげられた。また、指導教員から学生へのフィードバックが不十分である点も、課題としてあげられている。

管理上の課題としては、eポートフォリオを運用する部署に、職員を管理者として置く必要があり、職員の負担が大きくなることがあげられている。

学生や教職員のeポートフォリオの利用を促進する工夫としては、利用マニュアルの充実、メールマガジンの配信、講習会の開催や、eポートフォリオへの記入を授業科目の評価の一部とするなどがあげられている。また、技術的な工夫として、学内の様々なシステムにアクセスする際に、一度のIDとパスワードの入力で済む「シングルサインオン」を導入するとともに、学修管理システム(LMS)とeポートフォリオを連動させる例もみられた。さらに、eポートフォリオ利用者の情報交換を促進するために、コミュニティの形成が有効であるとの意見もあった。教職員の負担軽減については、学生へのコメントの頻度を考慮して、一教職員に対して負担にならない程度の人数を割り当てるとの工夫があげられた。

【参考ポートフォリオ画面の目次】

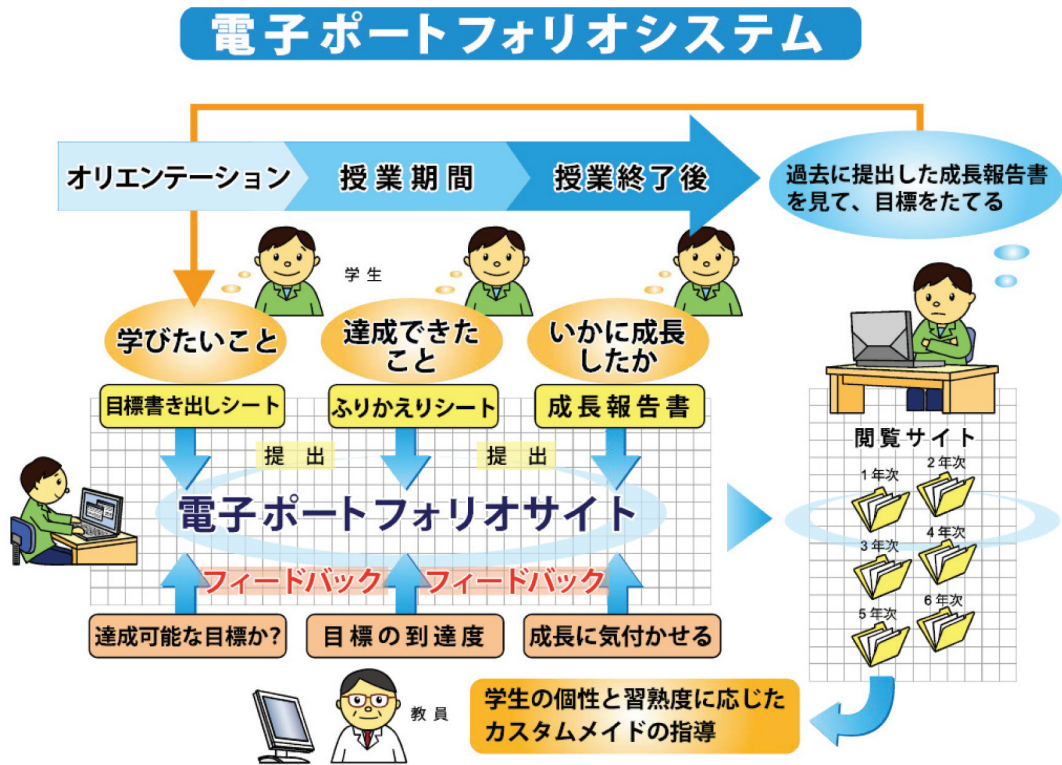
項目	代表画面	資料提供大学
【全体の流れを意識したシステム作り】 P32	eポートフォリオの利用目的や活用方法の流れ図	昭和大学
	個別授業の選択方法	
	提出物、コメント、学修履歴等の確認方法	
	教員の画面	
【メニュー画面】 P34	ポータル画面からeポートフォリオへのアクセス	大手前大学
	eポートフォリオのトップ画面	
	モバイル端末対応による利便性の向上	奈良教育大学
【行動履歴】 P37	1週間単位での行動履歴の記録方法	金沢工業大学
	1週間単位での行動履歴の記録方法	京都光華女子大学 短期大学部
	行動履歴の日誌形式での記述方法	福井県立大学
【学修成果の蓄積】 P40	レポート・成果物の蓄積と振り返り方法	大手前大学
	レポートの提出と履歴の確認	東北学院大学
【振り返りと目標設定】 P42	4年・1年単位の目標設定と学期毎の振り返り	大手前大学
	今年度の目標と達成度の自己評価	金沢工業大学
	教職課程における自己分析シート	立命館大学
【達成度の可視化】 P45	学修達成度の自己評価を数値化	お茶の水女子大学
	学修達成度の自己評価を可視化	大手前大学
【達成度の可視化から授業改善へ】 P47	自己評価とクラス平均値の比較を視覚化	大阪府立大学
	過去に担当した授業の学生自己評価結果一覧	

本参考指針は、PDFファイルで右記URLに掲載しています。 <http://www.juce.jp/info-system/port.pdf>

【参考資料】（資料の一部を抜粋）

【全体の流れを意識したシステム作り】

eポートフォリオの運用にあたって、eポートフォリオの利用目的や活用方法について、全体の流れを意識したシステム作りが重要である。



授業（ユニット）ごとにページ群が用意されており、授業名をクリックすると、個別の授業のトップページに移行する。